

## 令和5年度 第3回京丹後市スポーツ推進審議会会議録（公開用）

- 1 開催日時 令和5年10月30日（月） 19時00分～21時00分
- 2 開催場所 京丹後市大宮庁舎4階 第2, 3会議室
- 3 出席者 小谷順一委員（会長）、板倉俊明委員（副会長）、小石原正志委員、田崎仁志委員、小森直子委員、吉岡美乃里委員、川口勝彦委員、安井國士委員、谷口正郎委員、杉本智委員  
欠席者 足立俊治委員、藤原英一委員  
事務局 教育長 松本明彦  
教育次長 引野雅文  
生涯学習課 安達純、蒲田真穂、下戸裕子
- 4 議題及び会議の公開又は非公開の別 【公開】
- 5 傍聴人の数 なし

### 6 発言等の内容（要旨）

- 1 開会
- 2 あいさつ

#### <事務局>

定刻になりましたので、審議会を始めます。吉岡委員はこちらに向かっているとの連絡が入っております。本日は大変お忙しい中、お集まりをいただきありがとうございます。

本日、進行を務めさせていただきます生涯学習課の安達と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員様の出席、欠席についてご連絡させていただきます。足立委員と藤原委員より、欠席のご連絡をいただいております。以上になります。

それでは、ただいまから第3回京丹後市スポーツ推進審議会を始めさせていただきますと思います。

最初に会議の成立につきまして、事務局よりご報告させていただきます。京丹後市スポーツ推進審議会条例第5条によりまして、本審議会の会議の開催につきましては、委員の過半数の出席が必要でございます。

現在委員12名中の9名のご出席がございますので、会議が成立しますことをご報告させていただきます。

それでは開会にあたり、小谷会長からご挨拶をいただきます。よろしくお願いいたしま

す。

<小谷会長>

こんばんは。推進審議会も今回で3回目となります。前回も多くの意見をいただきました。人口減によるスポーツ人口の減少、少子化による子供の減少などいろいろ課題を出してもらいました。回を重ねるごとに多くの意見が出ました。本日もよろしくお願ひします。

<事務局>

ありがとうございました。それでは続きまして松本教育長がご挨拶申し上げます。

<松本教育長>

はい。皆さん、こんばんは。本当にお疲れのところご出席いただき本当にありがとうございます。

スポーツ推進計画の見直しについて、丁寧に議論いただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。

さて、前回もお話しましたが、全国大会や世界大会に出場する子供たちが増えてきたということをお話しました。10月11日にも全国大会へ出場する子供たちの激励会を挙行しました。予選を全部クリアすることはできませんでしたが、大変良い経験をしたのではないかと感じています。ほかにも駅伝競走大会、丹プロにも取り組んでいて、子どもたちがスポーツを通じて、高校生、社会人へとなって京丹後市の中でスポーツに親しみながら育ててほしいと願っています。

本日は皆様の率直なご意見を聞かせていただき、計画の見直しを行っていきたく思っています。よろしくお願ひします。

<事務局>

ありがとうございます。吉岡委員が到着されました。本日は10名の委員の出席です。

それでは議事に入りますが、以降の議事につきましては、小谷会長に進行いただきます。

なお、本日の審議会の内容は、議事録を作成します。まずは、その議事録署名人の選出をしたいと思います。小谷会長、宜しくお願ひします。

<小谷会長>

失礼します。それでは、まず議事録署名人を選出したいと思います。議事録署名人には田崎委員さんにお世話になりたいと思います。田崎委員さん、よろしくお願ひします。

それでは、次第に沿って進めさせていただきたいと思います。

次第3. 協議事項につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

最初に（1）第2次京丹後市スポーツ推進計画の中間見直しについての①計画の目標について説明をお願いします。

<事務局>

～～説明～～

<小谷会長>

ただいまの説明についてご質問、ご意見はありませんか。

<委員>

資料1のあみの八丁浜ロードレース大会について。令和4年度中止になっていますが、代替え事業として志水見千子を招聘して「八丁浜ランニング Day」を実施したが、それはカウントしないのでしょうか。

<事務局>

一応、スポーツ観光事業に係る活動ということで、市外の方が多く参加している事業をピックアップしております。

<委員>

八丁浜ロードレース大会は、市外からも過去は来ていました。代替え事業の「八丁浜ランニング Day」も市外から人が来ています。実績として入れたらよいと思います。

<事務局>

実績に入れることを検討しますので、後ほど、八丁浜ランニング Day の参加者数を教えていただきたいです。

<委員>

青少年スポーツ協会です。このスポーツ観光事業に係る活動状況に計上する基準は何でしょうか。

たとえば、陸上競技で小学生の海の京都という大会で、兵庫県や和歌山から来てもらっています。こういった大会は含まれないのでしょうか。市の補助金が交付されているかないかで決まるのでしょうか。具体的な基準を教えてください。

<事務局>

この数字は、市が関わっている事業で、内容が把握できる事業を計上しています。

<委員>

把握できるところだけ計上しているという風に見えます。そうでなくて、実際にはもっと広く活動しています。基準があいまいだと思います。もっと分母が大きくなると思いますが。

<委員>

サッカー網野カップやそのほかにもバスケット、バレーの大会をしています。こういった大会を開催していることを数字に挙げたらいい。

<委員>

以前からこの意見は出ています。同じ議論をしています。

教育委員会としては、把握しきれないということです。主だった事業を拾って計上しているということだと思っています。

<委員>

以前からずっと、数字をひろっていないというのがおかしい。免除の結果の報告に人数が出ているので掌握できる。報告を義務化することで実績が把握できるはずだ。

<事務局>

様々意見をいただきありがとうございます。

ごもっともだというふうに受け止めています。

この数字は、今の計画を策定したときの平成27年の現状値です。新しい大会を追加すると経年比較できなくなります。ただ、市の補助を受けているか、市が関わっている大会のみ計上するのは、広がりが無くなってしまいます。過去の数値との整理をどうするのかも含めて整理させていただきたいと思います。

<小谷会長>

いろいろご意見がある中で、検討していくということにします。

<委員>

本題までに時間がかかって申し訳ないが、今の資料で4点質問があります。

一つ目、資料2-4の、総合スポーツ大会の参加人数について、令和5年度の斜線の意味は協会に加盟していないのか、大会をしていないのか。

二つ目、野球の参加者が令和5年度は3倍くらいに突出していますが、素晴らしいことですが、この原因は何だろうと。

三つめは、令和9年度の目標数値について、全国大会、世界大会の毎年5人増やすとい

うことでしたが、この根拠は？

四つ目は、スポーツ大会の 1400 人で挙がっている。実際は人数が下降気味なのに、この数字の根拠は？

<事務局>

一つ目の質問ですが、斜線の競技団体は、加盟をされていないということです。また、空白は、今から大会を実施します。

二つ目の質問ですが、前回までは町対抗で大会をしていました。6 チームしか参加できなかったところ、今年から町対抗でなくなりましたので、チーム数が増えました。

三つ目の質問ですが、令和 4 年度を基準として、どれだけ増えるかという視点で設定しました。毎年 20 人増えてほしいという思いもあります。この目標はスポーツ協会とも話をする中で設定しています。

<小谷会長>

目標数値については、いろいろご意見いただいておりますが、一応この形でよろしいでしょうか。

<委員>

ニュースポーツのことをお聞きします。

スポーツ推進委員の活動をどのように進めようとされているのか、全然わからないのですが、どうやって人数を増やしていこうとされているのか？参加者の平均人数を見ると 10 人くらいのレベルです。指導員の方が多いような実態です。今後、どのような活動をしようとしているのかお聞きしたい。

<委員>

子どもから高齢の方まで誰でもできるというニュースポーツの普及を推進しています。この 3,4 年はコロナ禍の中で、ニュースポーツ教室自体を意図的に減らしていました。1 回のニュースポーツ教室では 10 名程度の参加者という状況でした。以前でしたら 20~30 名の参加が当たり前という状況でした。ちなみにグラウンドゴルフやソフトバレーは我々が紹介し普及に努めた結果、すでに協会もできて独自の運営をされています。現在、普及に力を入れているのは、モルックですとかビーチボールバレーなどです。

<委員>

おっしゃることはよくわかりますが、目に見えないのです。市民として。新しいスポーツを取り入れるのであれば、しっかりと市民に目に見えるようにしてもらわないと。具体性を出してほしいです。

<小谷会長>

ありがとうございました。ほかにご意見ありますか。

<委員>

高校の立場で話をさせてもらいます。全国大会、世界大会の目標数値75名の毎年5名ずつ増えていくというのは、ちょっと難しいと思います。京丹後市が中高生に全国大会に出場するために強化費を支援していくということになるかと思うのですが。実際には、京都府の競技力向上対策本部から指定クラブへ強化費が出ています。徐々に減っていますが。部員数も減っています。こうした現状の中で、目標数値を増やすというのは、どうしても無理があるのではないかと思います。高い目標を掲げるのはよいのですが、現実と逆行している気がします。

<小谷会長>

頑張りきれないそうです。目標数値が高いことはよいのですが。厳しい面があるということです。

<事務局>

下方修正を検討します。

<小谷会長>

続いて ②の計画の見直しについて事務局から説明をお願いします。

<事務局>

～～ 説明 ～～

資料3, 資料4, 資料5使用

<小谷会長>

事務局からの説明が終わりました。質問、意見ありましたら宜しくお願いします。

<委員>

網野屋内ゲートボール場の数字について教えてください。網野のゲートボール協会が一番早く潰れたのですが、なぜこんなに利用数が多いのでしょうか。930人という利用者数は多いですね。

<事務局>

利用申請書の数字を拾っており、利用者の詳細は把握していません。確認をしておきます。

<委員>

はごろも陸上競技場や京丹後夢球場は、新しく整備された施設で、使用率が上昇しています。ある意味成功事例です。

社会体育施設の維持、修繕とありますが、新しく整備するという話はないのでしょうか。市民の要望として聞き入れる体制はとれているのでしょうか。

<事務局>

スポーツ・レクリエーション環境の整備ということで、大会誘致及びプロスポーツの競技観戦等を推進するため、国際基準を満たすスポーツ施設等の整備を検討すると言及しています。また、市民ニーズに即した新たなスポーツ・レクリエーション施設等、スポーツ環境の整備を検討・推進しますという文言を入れています。

<委員>

スポーツ施設の中で、カヌーセンターが抜けているようですが。スポーツ大会の方では、カヌーマラソンやカヌー長距離選手権など誘致されていますが、施設のことはないですね。

<事務局>

追加します。

<委員>

何点か意見を言います。

まず一つ目。今前の審議会で特に意見もなかったのに、基本方針の「スポーツ観光のまちづくり」が、今回「スポーツによる地域活性化まちづくり」に変わっています。なぜ変わったのでしょうか。スポーツ観光で人に来てもらい、交流人口を増やしてお金を落としてもらい、移住定住につなげたいという当初の方針だったのが、地域活性化まちづくりに変わっている。

二つ目。私は区長会から出ています。この計画で「地域」という文言が出てきますが、地域とは、京丹后市全体なのか、旧町単位なのか、区なのか。地区コミュニティという表現がありますが、区エリアなのか旧町なのかもよくわからない。地域との連携なども出てくるが、はっきりしないと。審議会で出た意見が反映されていない計画になっているので、ちょっと憤慨しています。

<事務局>

コロナ禍により、観光関連が停滞していましたので、まず地域を活性化することが先であるということで、修正しております。

<委員>

基本方針は変えるべきではないと思います。

<事務局>

意見が反映されていないということですが、我々は、できるだけ過去にいただいた意見を当然反映させるべく検討しています。今ご意見いただいた部分はもれていたということだと思います。このようなことがもしかしたらほかにもあるかもしれません。皆さんにチェックしていただいて、指摘やご意見をいただきしっかりと受け止めたいと思います。

<委員>

地域の定義は？

<事務局>

地域というのは、区も地域のイメージがありますし、公民館というのも地域だというふうに思っています。旧町もやはり地域だと思います。

<委員>

全部が地域だとだめではないか。

例えば区だったら地区にするとか、旧町は地区にするとか、そういう定義を決めてもらわないと、なんでもかんでも地域でくくるとわからなくなる。

<事務局>

使い分けが可能かどうか、検討させてください。

<委員>

地区コミュニティという言葉があります。人が生活する、行動するというエリアで定義づけられています。私が言う地区は地区コミュニティという表現になるのかと理解しました。そうすると、公民館活動とか、その地域でいろんな運動が計画の中に出てこない。そういうことは、前回の審議会で入れるべきではなかったということだったのだと理解します。

しかし、地域で頑張っているスポーツを計画に載せないといけないと思っています。

<委員>

計画の中には、障害者スポーツ人口も増やすと書かれていますが、審議会のメンバーには障害者団体の代表者が入っていない。また、推進体制として「スポーツのまちづくり推進本部」というのが明確に書かれています。体制については、何回も言っていますが、スポーツ健康については健康推進課が実際は担っています。健康づくり推進員さんもこの体制に入ってくると思われるのですが、PDCA サイクルを回すとこの一行で書かれています。が、実際動いているかどうかはわからない。組織を横断的にやらないといけないと思います。事務局に健康推進課が入って当然だと思います。

それから、市民団体との連携等について、アンケートをとって最終的には市民の意見のニーズを得るということですが、それだけでいいのかということなんです。例えば、いろいろな会議がありますので、そういった場所でスポーツ関連の話をするとか。令和9年度の目標数値が出ているので、それに近づけるためには、対策本部、推進本部がきちんと動かないといけないと思います。

<事務局>

事務局でも、いただいた意見を検討しなおしたいと思います。次回、修正ということで報告させていただきます。

<小谷会長>

今、言われたような5ページの中学校の運動状況ということで、ここを見れば、そこで示してるということですね。

<小谷会長>

委員の言われた課題について、まちづくり推進本部ではどのような会議をされていますか。

<事務局>

近年、この会議は開催されていません。

<委員>

計画を読ませていただいて、一番気になったのが、この計画の中で出てくるのは、スポーツ推進委員、スポーツ協会、青少年スポーツ協会です。大体、そこに依頼するとか、強化するとか拡大するとか。それ以外の地域の団体もありますが、そういった団体はほぼ出てきません。それでよいのか、全体を通じて感じました。

特に人材育成についても、この3団体にお願いするという読み方しかできませんでした。

<小谷会長>

多くの意見をいただいておりますが、本日、まだご発言いただいていない方からご意見をもらいたいと思います。

<委員>

私は、スポーツインストラクターとして現場で運動指導を行っています。親子リフレッシュ体操でお母さんと赤ちゃんの体操から、高齢者大学での指導、新体操クラブの指導、障害者施設での運動教室を行っています。

現場で多くの方と運動していて、私が一番興味を持ったのが、スポーツに関して知りたい情報が、「自宅・職場などで簡単に行える運動」です。多くの方に体を動かすことをお届けしたいといつも気持ち満タンでこの会議に出席しています。

<委員>

今日は、自分の意見がまとまりません。今日は、報告の場、報告と説明だと思いましたが、次回もっと具体策が出てくることを期待します。

<委員>

小学校の立場で話します。先日、久美浜小学校で生涯学習課長を通してカヌー体験をさせてもらいました。20数名の子供たちがカヌーを体験して、目を輝かせて楽しそうにしていました。

また、小学校の駅伝大会も途中ケ丘公園で開催しましたが、そこで私が挨拶をしたのですが、専門的な話ではなく、計画のタイトル「市民が楽しみ、とものつくるスポーツのまち」というように、幅広く楽しんで競技に対するきっかけづくりにつながるようなことを小学校の方でしています。スポーツ推進委員さんにも小学校に来てもらっていますし、そういった活動がこの計画のもとに今後広がることを期待します。

<小谷会長>

様々に意見が出ました。まとめるのは大変ですが、本日の意見を次の会議までにまとめていただきたいということで本日の審議会を終了します。

<事務局>

事務局からお知らせします。11月18日に大学駅伝が開催されます。お手元にチラシのゲラを置きましたので参考にご覧ください

閉会の挨拶を副会長様にお願いします。

<板倉副会長>

皆さん、多くの意見をありがとうございました。

委員の指摘事項で、基本方針4をなぜ変えたのかという中で、気になったことがあります。商工会の方でもいろいろ話す中で、人口減少が事業にも影響が出始めています。スポーツにおいても同様で、人口減のため、子どもたちの野球チームが組めないなど。競技の上でもいろいろ影響が出てくるのではないかと考えています。

そういう意味でも、移住促進の目標があってもいいのではないかと。具体策は思い当たりませんが。

市外から移住する人は、海側とか山奥に多いということを知りました。もしかしたら海側に移住をする方は、サーフィンをしたいから移住したんだとか。スポーツ振興としての計画の中にもそういった移住を促進するような切り口があってもいいのかなと思います。

本日は、たくさんの宿題ができました。事務局にはきちんと整理いただき、皆さんでよりよい計画ができたらいと思っています。